

第23回関東地方ダム等管理フォローアップ委員会

【事後評価】

藤原ダム地域連携事業



平成26年12月26日

国土交通省
関東地方整備局

「藤原ダム地域連携事業」について

- この報告書は、国土交通省所管公共事業の完了後の事後評価実施要領に基づき、平成21年度に完成した「藤原ダム地域連携事業」のフォローアップを行うものである。
- これまでの経緯
 - ・平成18年度 藤原ダム地域連携事業 着手
 - ・平成21年度 藤原ダム地域連携事業 完了
 - ・平成26年度 ダム等の管理に係るフォローアップ制度による事後評価

藤原ダム地域連携事業 資料

【目 次】

1. 事業の目的・概要 3
2. 事業目的の達成状況 8
3. 今後の事業へ活かすレッスン 16
4. まとめ 17

1. 事業の目的・概要

(2) 事業の背景と経緯

- 藤原ダム周辺は、釣りや花見、散策等多くの人々に利用されているほか、テニスコートなどの施設整備が行われているが、施設の老朽化に伴い利用者が減少したため、地元住民及び自治体からも施設利活用を含めた施設の再整備を望む声が挙がっていた。
- そのような背景のもと、美しい自然や豊かな歴史・文化を活かした魅力ある地域の実現を目指し、平成14年度に「利根川源流水源地域ビジョン」が検討され、その目的を実現するため、藤原ダム地域連携事業を平成18年度より実施することとなった。
- 事業の実施にあたっては、地元住民及びみなかみ町とともに利活用計画の検討を行った。

利根川源流水源地域ビジョンのテーマと施策

利根川の源流に位置し、矢木沢ダム・奈良俣ダム・藤原ダム・相俣ダムを有する「みなかみ」では、美しい自然やこれまで培われてきた豊かな歴史・文化を活かした魅力あふれる地域の実現を目指して、「美しい水と森を育む魅力あふれる水源聖地」をテーマに3つの取り組みを進めます。

〈地域全体のテーマ〉

美しい水と森を育む魅力あふれる水源聖地

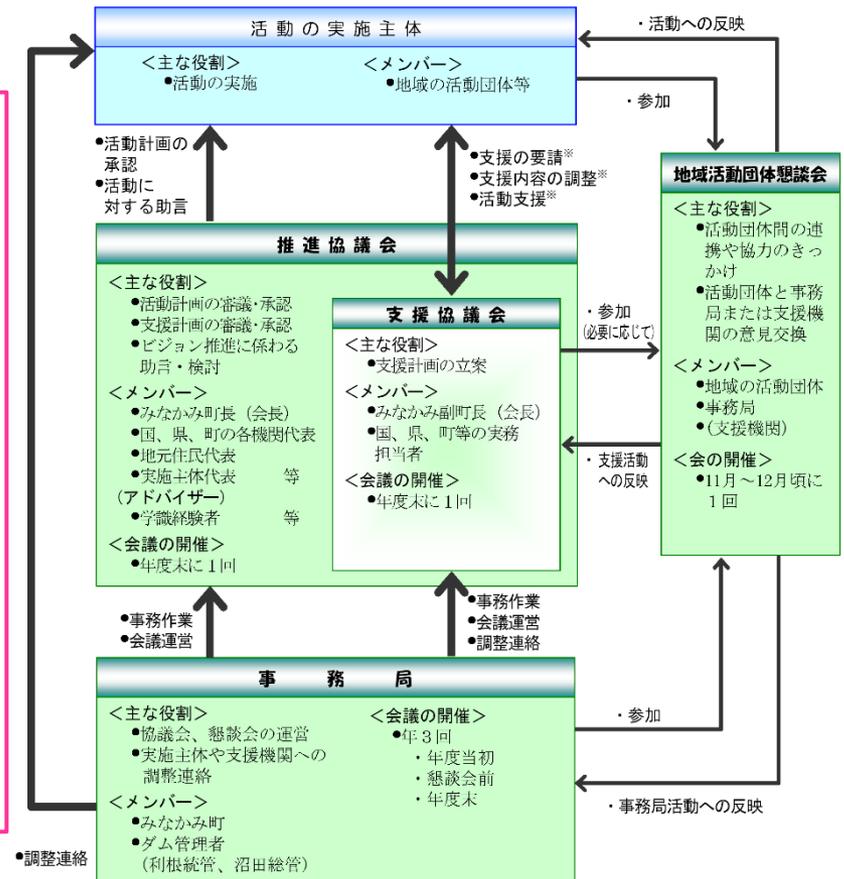
〈3つの取り組み〉

魅力溢れる美しく心地よい水源地域づくり

自然や歴史・文化を活かした躍動感溢れる観光エリアづくり

みなかみへの愛情溢れる利根川源流からの人の輪づくり

※平成21年度にみなかみ町の合併に伴い、相俣ダム、奥利根ダムのビジョンが統合



1. 事業の目的・概要

(3) 事業の概要

- 事業名：藤原ダム地域連携事業
- 事業目的：ダム周辺空間の利用環境・安全性の向上と促進を図り、新たな活動空間を創出することで、レクリエーション資源としての価値を高め、水源地域の活性化に資するものである。
- 事業内容：①横山地区 アクセス道路、多目的広場、トイレ、駐車場
②蟹掛地区 フットサルコート、転落防止柵、用具入れ
- 事業期間：平成18～21年度
- 総事業費：1.85億円

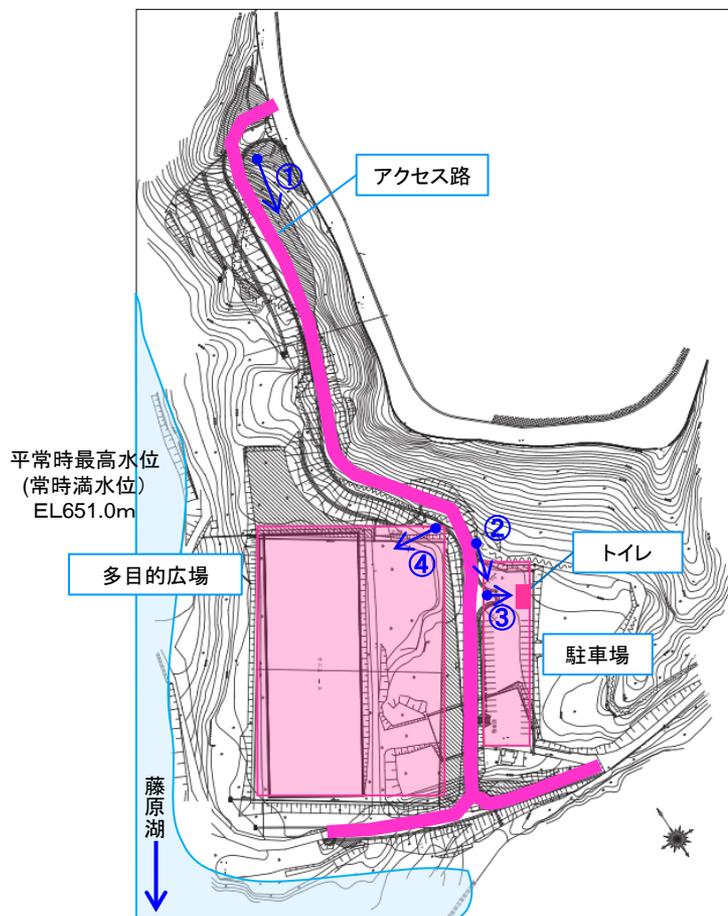


1. 事業の目的・概要

(4)横山地区の事業概要

<①横山地区>

・新たにアクセス道路、駐車場、トイレの設置とあわせて多目的広場を整備することにより、ダム湖畔における開放的な活動空間を創出する。



①アクセス道路



②駐車場



③トイレ



④多目的広場



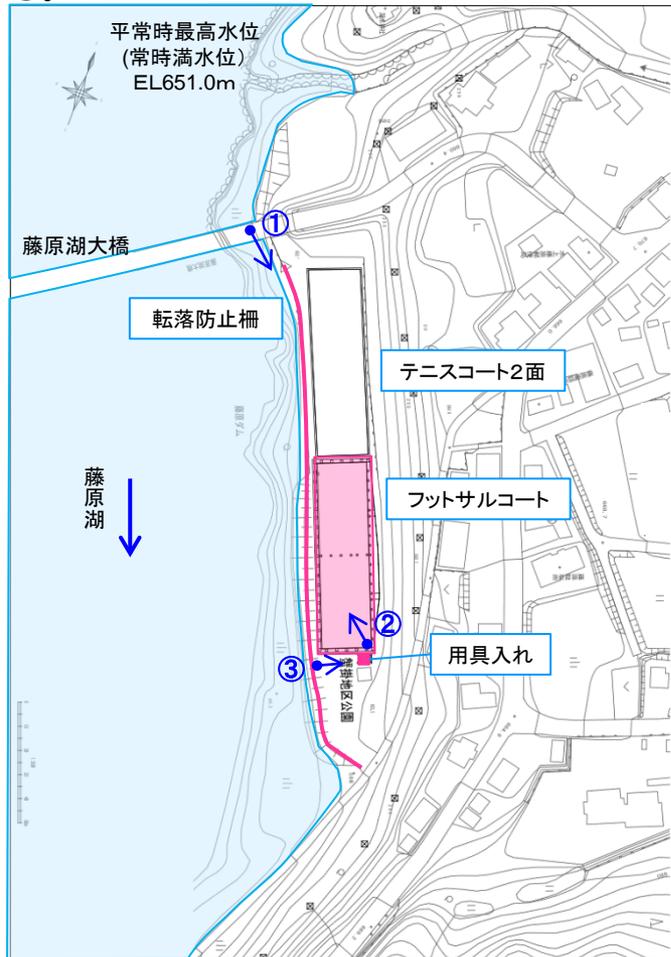
整備項目	整備年度
アクセス道路	H18～H20
駐車場	H20
トイレ	H20
多目的広場	H20

1. 事業の目的・概要

(5) 蟹掛地区の事業概要

<②蟹掛地区>

・転落防止柵を設置することで安全に湖面を望むことができるスポットの創出やフットサルコートなど新たな活動空間を創出する。



整備項目	整備年度
転落防止柵	H21
フットサルコート	H21
用具入れ	H21

2. 事業目的の達成状況

(1) 確認された事業効果

<事業効果:横山地区>

整備前:テニスコートが老朽化し、また、アクセス路となる林道は道幅が狭いため大型車の進入が困難であり、駐車場やトイレも整備されていなかったことから利用者が減少していた。

整備後:アクセス道路や駐車場、トイレを整備したことで、施設の利用環境が向上したとともに、テニスコートから多目的として改良したことで、新たな活動の場が創出され、利用者が増加した。

(多目的広場整備)

整備前



施設の老朽化

整備後



多目的広場として
整備

利用状況



多目的広場の利用状況
(上下流交流サッカー大会)

(駐車場整備)

整備前



駐車場として整備が
されていない

整備後



駐車場整備による
利用環境向上



駐車場の利用状況 (イベント時)
大型バスの進入出が可能となった

(アクセス路整備)

整備前



幅が狭く大型車の
進入が困難

整備後



アクセス道路整備に
よる利用環境向上

2. 事業目的の達成状況

(1) 確認された事業効果

＜事業効果：蟹掛地区＞

整備前：テニスコート施設の老朽化に伴い利用者が減少し、またダム湖畔には柵がないため、安全に散策や眺望することができなかった。

整備後：テニスコートの一部をフットサルコートに改良したほか、用具入れ、転落防止柵を設置し利用環境・安全性が向上したことで利用者が増加した。

フットサルコート整備

整備前



施設の老朽化

整備後



フットサルコートとして再整備

利用状況



フットサルコートの利用状況

転落防止柵整備

整備前



安全に湖面が望めない

整備後



安全に湖面が望める

用具入れ整備

整備前



用具の保管場所がない

整備後



用具の保管が可能になった



フットサルコートの利用状況
(ゲートボール場としても利用)

2. 事業目的の達成状況

(2) 費用対効果分析

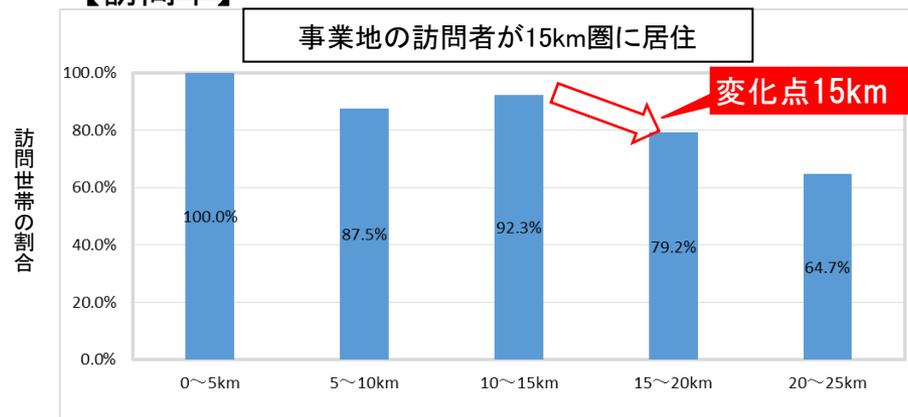
② 受益範囲の設定

■ 予備調査より、藤原ダムの訪問率の変化点がみられる15km圏を受益範囲として設定。

【受益範囲】

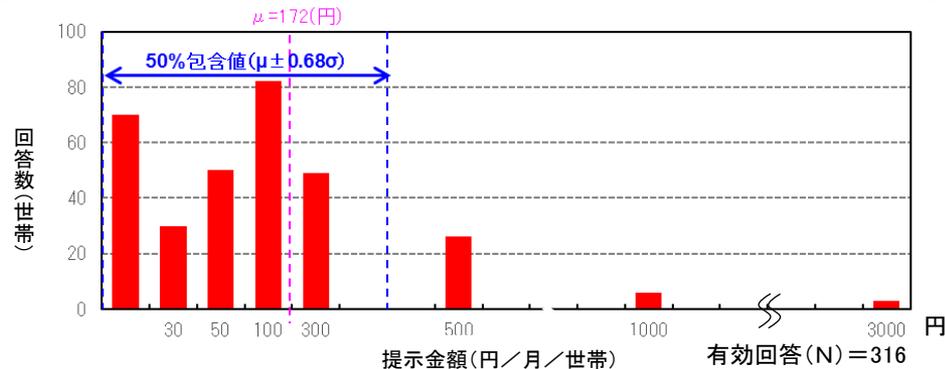


【訪問率】



事業実施区域から居住地までの距離
有効回答(N)=37

● 本調査アンケートの結果



(注): 本グラフは、アンケート(提示金額)に対し、各世帯が回答(賛同)した最高金額を支払意思額の最大値とみなし(※)分布表示

μ: (※)の総和を回答数で除した値、支払意思額(WTP)とは異なる。

2. 事業目的の達成状況

(2) 費用対効果分析

③環境整備における費用便益比

- 総便益(B)・ダム周辺住民を対象としたCVMアンケートより支払意思額(WTP)を把握。
 - ・WTPから年便益を求め、評価期間を考慮し、残存価値を付加して、総便益を算定。
- 総費用(C)・事業に係る建設費と維持管理費を計上。

● 支払い意思額

項目		藤原ダム地域連携事業
評価時点		平成26年
評価期間		整備期間+50年間
受益範囲		訪問率(訪問者の居住範囲の割合)の変化点である藤原ダム15km圏
集計対象	配布数	2,000票
	有効回答数 (有効回答率)	316世帯 (15.8%)
支払い意思額(WTP) 月・世帯当たり		265円/世帯/月

● 費用便益比

総費用(C)	藤原ダム地域連携事業
①建設費	2.3億円
②維持管理費	0.1億円
③総費用(①+②)	2.4億円

総便益(B)	藤原ダム地域連携事業
	6.9億円

費用便益比 (B/C)	藤原ダム地域連携事業
	2.9

2. 事業目的の達成状況

(3)コスト削減の取り組み

■横山地区のアクセス道路工事では、盛土材を購入土ではなく周辺工事の流用土を活用することで、コスト削減を図った。

アクセス道路での必要土量: $V=8,940\text{m}^3$

①購入土の場合:工事費 16.1百万円 (1,800円/ m^3)

②流用土の場合:工事費 4.7百万円 (520円/ m^3)

②-①=▼11.4百万円



周辺工事の流用土を
活用したアクセス道路工事

2. 事業目的の達成状況

(4) 確認された事業効果(ダム湖利用実態)

- 横山地区の多目的広場は、藤原湖マラソンのスタート、ゴール地点となるなど、スポーツイベント会場として多くの人々に利用されている(藤原湖マラソン参加者は年々増加傾向)。
- アンケートの自由意見では、環境整備に対して肯定的な意見が多く、整備した施設の利用と周辺観光の相互利用への期待が大きい。

藤原湖マラソン参加者(エントリー数)の推移

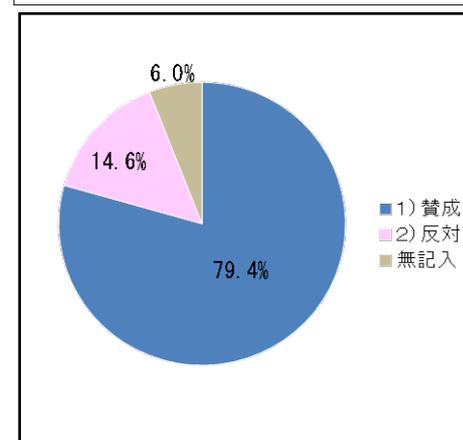


出典：みなかみ町 観光課



藤原湖マラソン

藤原ダム周辺環境整備事業の賛否



出典：藤原ダム周辺の環境整備事業に関するアンケート(H26)

● アンケートで得られた主な自由意見

- ・自然がすばらしく、このあとは水上温泉に宿泊する。
- ・観光あるいはまちづくりの基になるような整備をする必要はあると思う。
- ・引き続き維持管理され、地域住民や観光に役立ててほしい。
- ・環境整備は必要。トイレや駐車場が整備されれば利用者も増え、訪問したくなると思う。
- ・環境整備が行われたことは非常に良かった。周辺地域の積極的な活用に向け町にも期待したい。
- ・せっかく整備したのだから、もっとPRして利用を促すべきである。
- ・ほったらかしではまた荒れ地になってしまう。適切な維持管理が必要。

出典：藤原ダム周辺の環境整備事業に関するアンケート(H26)、ダム湖利用実態調査アンケート(H21)

3. 今後の事業へ活かすレッスン

— 本事業を通して得られた知見 —

● 本事業が地元や来訪者の活動の場として利用され、一定の効果が得られている。

- アンケート結果から、整備箇所はスポーツ(イベント含む)の場や上下流連携の場として活用されていることが確認され、本事業は一定の効果が得られている。
- アンケート結果では、約8割の人が事業に賛成しており、利用環境向上や次世代にとって良いことであるとの回答が得られ、事業に対する評価が得られている。

● 本事業は地元の観光要素の一つとなっている。

- ダム周辺は水上温泉や宝台樹スキー場等があり、これら従来の観光場所に近接して、本事業により新たにスポーツ(マラソン、フットサル等)やイベントなどの活動空間が創出され、年間を通して藤原湖周辺の観光等にとって必要不可欠なものとなっている。(スポーツ後に温泉宿泊または日帰り入浴が多い)
- アンケート結果では、事業の実施を知らなかった被験者がみられたことのほか、今後、更なる水源地域の自立的・継続的な活性化を図るためにも、PRを積極的に行い、藤原湖周辺への来訪者を増加させるような取り組みを支援していく。

● 事業実施を契機とした地域間の連携が強化された。

- 水源地ビジョンの枠組みを活かし、水源地域の活性化の他、情報交換やコミュニケーションの意識が高まり、住民と関係機関の連携がより一層強化された。
- 多目的広場の活用により、県内外の上下流連携が強化された。

4. まとめ

—対応方針—

(1) 今後の事業評価及び改善措置の必要性

- 本事業により、藤原ダム周辺の利用者の安全性・利用環境が向上し、スポーツ等を目的とした利用はもとより、上下流連携の場としても活用されている。
- よって、「藤原ダム地域連携事業」は目的を果たしているものと判断し、本事業の有効性は十分見込まれていることから、今後の事業評価及び改善措置の必要性は認められない。

(2) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 事後評価の結果、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はないと思われる。